

## 備中櫓の こだわり

備中櫓の復元整備でめざしたものは、「森忠政が造った備中櫓をできる限り忠実に復元すること」でした。そのため、設計や施工段階で随所にこだわりを持っていきます。

たとえば、備中櫓の基礎に現代工法は一切使っていません。森忠政が築いた石垣の上に直接、櫓を載せた構造になります。

また、屋根の鬼瓦には森家の家紋「鶴丸」を使い、鯨は備中櫓が造られた時期に近い大阪城乾櫓の鯨をモデルに、より古式な形を表現しています。

内部の木材は、御殿建築に多く使われているヒノキ材で、節のない良質の材料です。また、江戸時代初期に存在しなかった柱のヒビを防ぐ「背割り」の技法はあえて用いていません。

このように、見学者の目にふれることの少ない細部にまでこだわって復元しました。

## 完成までのあゆみ

### 記念事業の瓦記帳

多くの人に築城400年記念事業に協賛していただきました。協賛を記念した瓦記帳のようすです。



### 一般見学会

建物が完成してからは見ることのできない内部の構造などを見学していただくために、工事期間中3回の一般見学会を開催しました。



### 鯨検査

瓦の中で最も大きい鯨の制作状況を奈良で確認しました。



### 屋根工事

屋根工事には多くの工程があります。一般的な櫓では、屋根を板で葺き、土を載せ、その上に瓦を葺きます。備中櫓では建物を軽量に仕上げるため、土の代わりに瓦棧かわらせんというものを使用しました。



# もうすぐ完成！ 備中櫓



## 備中櫓の みどころ

備中櫓は白漆喰総塗籠しろしっくいそうぬりごらの櫓らしい外観になっていますが、内部の構造は、通常の櫓のような戦闘施設や倉庫のようなものではなく、本丸の奥御殿の一部として機能していた建物でした。外からは櫓という建造物の姿が実感でき、内部は本丸御殿のようすが体感できるという2つの姿を持った建物です。

### 備中櫓復元落成記念式

とき 3月19日(土)午前10時

ところ 津山城跡(鶴山公園)本丸

### 落成記念 鶴山公園の無料開放

とき 3月20日(祝)・21日(月)午前9時～午後4時30分

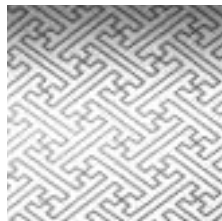
### 壁工事

壁は、柱を壁土の中に塗り込んでしまう「大壁」と、柱を見せる「真壁」の2種類の仕上げになっています。いずれも竹を組んだ「小舞」を用い、その上から土を塗っては乾燥するという工程を数回繰り返して、最終的には漆喰塗に仕上げられています。



### 内装工事

金物などは、市内の森家ゆかりの寺院などに残っているものを忠実に再現しています。また、内部の壁の仕上げは部屋の名称や構造から部屋の「格」を推定し、視覚的にその格を認識できるよう最上質の部屋には鶴丸文様の唐紙からかみを、それに次ぐ部屋には紗綾形文様の唐紙さやがたを使用しています。



### 素屋根の取り外し

平成16年11月11日、約2年にわたり本体を覆っていた素屋根が取り外されました。これにより、備中櫓の姿をみなさんにご覧いただけるようになりました。

